

# 薬液槽撤去の作業手順書

制定・改定日 2022.7.19

項目	内容	留意事項
準備工	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業内容の確認</li> <li>作業人員の確認</li> <li>保護具の点検</li> <li>使用機械、資材、工具の点検(落下防止処置確認)</li> <li>設計図書の確認・照査</li> <li>埋設物の確認</li> <li>試掘で埋設物がないことが確認されている箇所に、杭(建地)を打ち込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示書の内容確認</li> <li>安全打合せ書による。</li> <li>作業別安全チェックシートの活用。</li> </ul>
飛散防止ネット設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>建地(単管パイプ3m~4m)を杭に堅結して垂直に建てこむ。</li> <li>地上より1.5m、3mの高さの位置に横棧を建地に水平に堅結する。</li> <li>控えを建地に堅結して、全体の剛性を確認する。</li> <li>高所作業車にて、建地、横棧に飛散防止用ネットを張る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カケヤ、大ハンマーで手足を打たないように注意する。</li> <li>3m以上の単管パイプを建て込むときは、必ず2名で支持する。</li> <li>設置箇所が平坦でない場合は、必ず高所作業車を使用する。</li> <li>高所作業車の設置は、平坦な場所に必ず敷き板を使用し</li> <li>アウトリガーを最大に張り出す。</li> <li>有資格者による、機械作業を行う。</li> </ul>
足場設置工	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業台として「うま」若しくは、高さ1mの移動可能な、単管足場を設置する。(脚立は使用しない)</li> <li>ハタ角と単管サポートを使用して、切断したコンクリート壁が内側へ倒れないよう支保工を設置する。(クレーンを使用するときは鋼製で、手摺を先付する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>脚立は不安定になりやすいので使用しない。</li> <li>槽への出入りは梯子を使用して、2箇所以上で固定する。</li> <li>支保工を移動、撤去するときは、監視員が壁の動きを注視する。</li> </ul>
ウォールソーカッター施工	<ul style="list-style-type: none"> <li>図面等により、切断箇所、順序を確認する。</li> <li>支保工が設置されていることを確認する。</li> <li>機材を設置して作業を行う。</li> <li>支保工の移動が必要ときは、現場責任者へ報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予め設置された作業台を使用する。(脚立等は持ち込まない)</li> <li>壁が変位したときは、作業を中断して、安全な場所へ移動する。</li> <li>油圧ホースの点検を始業前に必ず行う。</li> <li>切削用手袋、防塵マスク、保護メガネ、耳栓を使用する。</li> </ul>
側壁Con板撤去	<ul style="list-style-type: none"> <li>処分場のルートと、処理伝票の確認を行う。</li> <li>バックホーの足元に、必ず敷鉄板養生を行う。</li> <li>切断したコンクリート壁を内側に倒しこみ、ダンプに積み込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業員を槽内に入れない。</li> <li>作業員をBHIに近づけない。(立ち入り禁止)</li> <li>倒しこみと、ダンプに積み込むときに飛散に注意する。</li> <li>過積載をしない。</li> <li>有資格者による、機械作業を行う。</li> </ul>
土留め設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>地山に変位があるときは、監督員に報告して指示を受ける。</li> <li>図面等により、土留めの組立順序等を確認する。</li> <li>高所の作業は、作業台(うま)を使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予め設置された作業台を使用する。(脚立等は持ち込まない)</li> <li>始業前に地山に異常がないか確認する。</li> <li>電動工具等は、安全装置等が動作するか始業前に確認する。</li> <li>切削用手袋を使用する。</li> </ul>
仮設フェンス設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>図面等により、設置方法、順序を確認する。</li> <li>試掘で埋設物がないことが確認されている箇所に、杭(建地)を打ち込む。</li> <li>単管パイプを上下2段にクランプにて、建地(杭)に堅結する。</li> <li>ガードフェンスを単管パイプへ堅結する。</li> <li>控えを建地に堅結して、全体の剛性を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業に合った保護具を使用する。</li> <li>カケヤ、大ハンマーで手足を打たないように注意する。</li> <li>既設ガードレールに番線で単管パイプ、桟木等を堅結するときは、ガードレールに土藁、布等で養生する。</li> <li>番線の端部は内側へ向ける。</li> </ul>

飛散防止ネット撤去	<ul style="list-style-type: none"> <li>高所作業車にて、飛散防止用ネットを撤去する。</li> <li>横棧を撤去する。</li> <li>控えと建地を撤去する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業に合った保護具を使用する。</li> <li>集積した材料は、当日に搬出する。</li> <li>有資格者による、機械作業を行う。</li> </ul>
片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用した道具、機材、余った材料等は、トラックに積み込み、最後に竹ぼうきなどで清掃する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。</li> <li>はつきりかす、材料かすが無いように、綺麗に清掃する。</li> </ul>

作業編成(標準)			機材		資材		安全器具・保護具	
作業責任者	1	名	バックホウ				ヘルメット	
現場監視員	1	名	油圧ブレーカー				反射チョッキ	
作業員	6	名	Coカッター				警笛	
			コアカッター				保護メガネ	
			水中ポンプ				防塵マスク	
			発電機				耳栓	

※現場で作業手順を変更する場合は作業を中止し、作業責任者からメンテ名古屋担当者に報告・相談する。

## ■注意事項(共通の指導事項)

- 1.作業責任者は、熟練した有資格者を選任する。
- 2.地震台風後や足場を変更した際は、その都度責任者による点検を行う。
- 3.手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。

4.一人作業の禁止